

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 2018年11月30日
 都市名・国 長野県 駒ヶ根市

取組の名称	戦後70年《平和への祈り》駒ヶ根市立図書館講演会 「若者に伝えたい・みんなに語り継ぎたい・私の戦争体験」
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合(図書館、市教育委員会、公民館)
テーマ・目的	戦争体験を語り継ぐ(平和への祈り)
対象者 (年齢・学年、人数等)	10代～90代(男性30名、女性50名)
実施場所	駒ヶ根市総合文化センター 小ホール
実施期間	2015年9月13日～ 年 月 日(日間) ※定期的に行う取組は、その旨を記入し、いつから、どれくらいの頻度で実施しているかを報告してください。
取組の概要(授業、イベントはプログラムの次第を、その他(例:コンテスト等)はそのプロセスを、具体的に記入してください) 第1部《わたしの戦争体験記》体験談「耳を澄ませて空を見つめて」朗読「父の日記」 第2部《わたしの登戸研究所》体験談「駒ヶ根市の登戸研究所」体験談「わたしの戦争体験」 第3部《広島平和記念式典に参加して》 地元中学生2名による作文朗読 図書館司書による書籍の朗読「荻原美智子(当時十歳)の手記」「生ましめんかな」 内容詳細:第1部では、昭和16年に赤穂防空監視哨が設置せられ、10代後半の青少年たちが、一昼夜七名の勤務で、空を見上げ機影の監視、飛行機の爆音を聴取していた方の体験談。戦時下の世相や生きていく苦悩が記されていた父の日記の朗読。第2部では、陸軍登戸研究所の駒ヶ根市への疎開と組織の概要、任務について、実際に勤労働員され爆弾づくりに従事していた方の体験談。第3部は上記。その他当館竹村文庫所蔵の戦中戦後の教科書、関連書籍の展示。新聞でみる登戸研究所として、関連記事を掲示。	
参加者の反応 ・戦争体験を聞く機会がない中、貴重な体験が聞けて、現在の平和の尊さを感じた。 ・戦後生まれの私達がこの体験記を、次世代に伝えていかなくてはと思った。 ・地元、しかもこの文化センターの敷地内に防空監視哨があるのも知らなかった。 ・本当に体験した人のことばは、やはり重い。戦後70年こうした機会は貴重になっていくと思う。・・・など参加者から感想をいただきました。	
成果 戦後70年という節目に、平和の尊さを考える企画を実施し、各世代が考える機会を持って良かった。	
課題 体験談など、戦後生まれの世代にいかに語り継いでいくか、このような企画を今後も実施していくこと。	
取組で使用した素材について(図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください) 戦中・戦後の教科書、写真週報、戦争関連本など	
上記素材の共有の可否(取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい) <input type="checkbox"/> 掲載可能(素材を添付してください) <input checked="" type="checkbox"/> 掲載不可 <input type="checkbox"/> 不明	

※ 画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。